

34 小幡城跡緑地環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 小幡城跡周辺一帯（茨城町）
- (2) 指 定 昭和60年3月30日（茨城県告示第543号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、現在スギ、ヒノキの植林、シラカシ、アカガシ、コナラ等が混生する森林である。林内には、本丸跡、土塁跡、空堀等がほぼ原形をとどめており、林床にはクジャクシダ等の山地性シダ類が群落を形成し、自然状態の植生を呈している。

この森林と一体となった城跡は、史跡として県内では貴重なものである。

このような史跡と一体となった良好な自然環境を保全する必要がある。

このため、本地域は茨城県自然環境保全条例第10条1項第2号に規定する「歴史的、文化的、社会的遺産がその周辺の地域と一体となって良好な自然環境を形成している区域」に該当する。

(2) 自然環境の概要

ア 植 生

本地域は、小幡城跡と呼ばれるように昔館の存在していた場所で、現在はスギ・ヒノキ植林などを含んだ森林となっている。東側の人家近くにはモウソウチク林も見られる。地域全体にシラカシ、アカガシが多くその中にスギが混入したりする状態が見られるが、自然林としての性質が

強い。

植生はスギ・ヒノキ植林，シラカシ群落，モウソウチク林と区別することができるが，シラカシ群落が主な植生で，スギ・ヒノキ植林内もシラカシ，アカガシ，或いはコナラなどの低木が混入している。林床にはシダ植物が多い。クジャクシダ，ミゾシダ，ホシダ，ジュウモンジシダなどが生育している。これらは山地に生育するシダ類で，クジャクシダは本地域内の各地に群落がみられた。

イ 野生動物

空堀のところで見られる動物は，ドウガネブイブイ，マメコガネ，ヒメコガネ，オオニジュウヤホシテントウ，ヨモギハムシといった甲虫類，分布の北限が岩手県まで伸びているクロアゲハ，日本のほぼ全域に分布し，山地，平地共に普通に見られるコムスジ，関東以西に多く，季節変化の多いキチョウ，日本全土に分布し，平地や低山地に多いヒメウラナミジャノメといったチョウ類が見られる。

トンボ類では，体全体が銀緑色で，南方系のアオモンイトトンボ，県内の池沼に普通に見られるオオヤマトンボ，県内の平地から低山地に局所的に分布するマイコアカネなどのほかシオカラトンボ，コフキトンボ，ナツアカネ，アキアカネが見られるが，林内よりも林縁の方が多い。

クモ類では，南方系のクモで，枯れた葉をつるし，その中に産室をつくるハツリグモ，お碗のような形をした不規則な網を張るクスミサラグモ，暗い林内に多く，網にかくれ帯をつけるウズグモ，コガタコガネグモ，徘徊性のスジアカハシリグモ，イオウイロハシリグモが生息している。

セミ類は，一般的に見られるアブラゼミ，ミンミンゼミ，ニイニイゼミ，ツクツクホウシ，ヒグラシが生息し，季節になるとよく鳴き声が聞かれる。

鳥類は，コジュケイ，ヤマドリ，キジバト，カッコウ，キセキレイ，ハクセキレイ，モズ，シジュウカラ，カケスなどが見られる。

(3) 区 域

ア 区域の概要

本地域は，香取神社のある台地と対置する台地の東端部に位置する茨城町小幡地内の小幡城跡を中心とする地域である。

イ 位置及び区域

東茨城郡茨城町大字小幡字城ノ内地内

別図のとおり

ウ 面積 7.46ヘクタール

エ 土地所有関係

単位：ヘクタール

国 有 地	公 有 地	民 有 地	合 計
0	0	7.46	7.46

(面積は，台帳面積による。)

(4) 自然環境の保全に関する基本的な事項

本地域は，小幡城跡と呼ばれ，昔，館の存在した場所で，現在スギ，ヒノキの植林，シラカシ，アカガシ，コナラ等が混生する森林である。

林内には，本丸跡，土塁跡，空堀等がほぼ原形をとどめており，林床にはクジャクシダ等の山地性シダ類が群落を形成し，自然状態の植生を呈している。

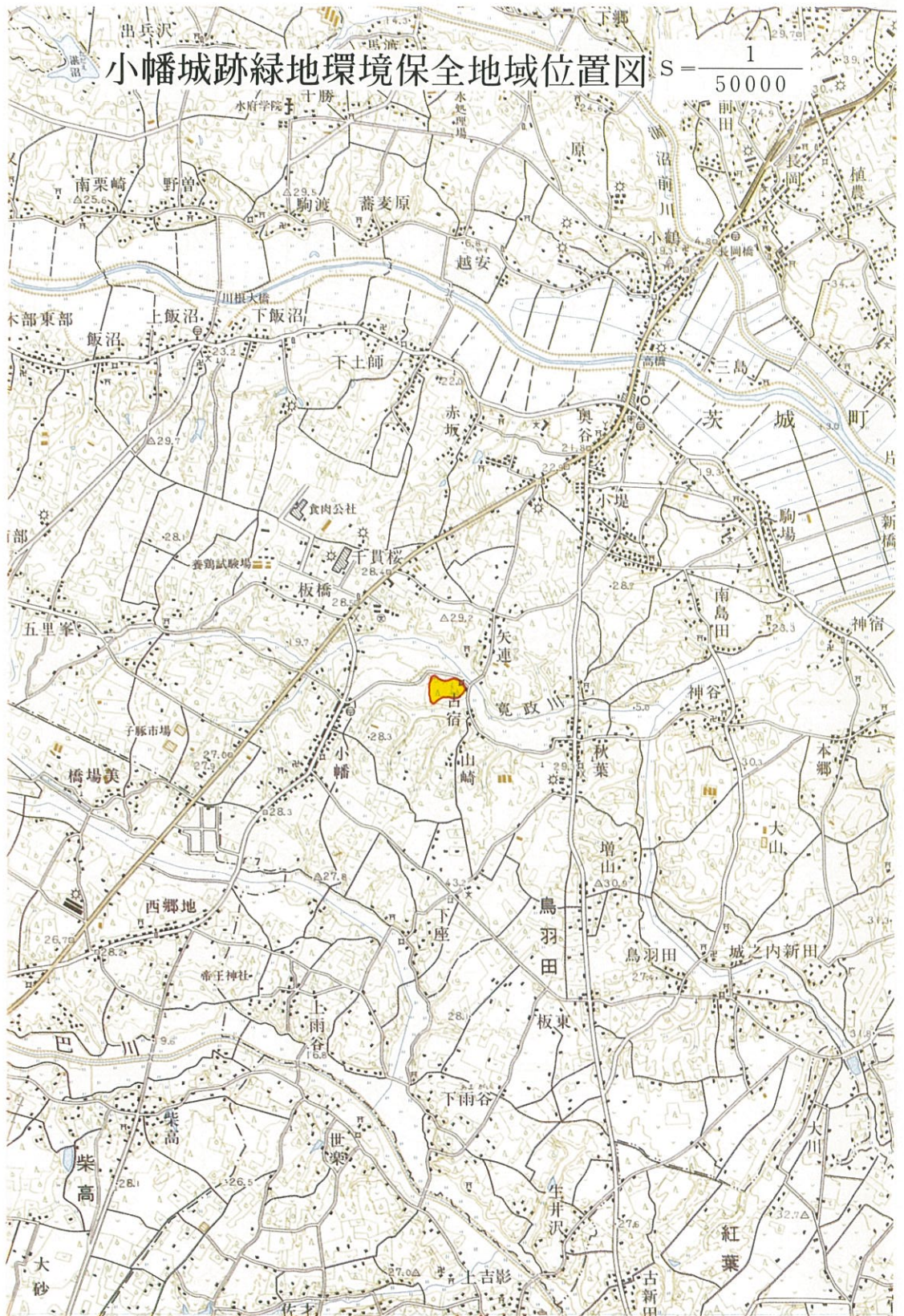
この森林と一体となった城跡は，史跡として県内では貴重なものである。

このように本地域は，史跡と一体となった良好な自然環境を形成しており，これらの動植物を維持するため，自然環境の保全を図る。

このため，保全に必要な規制は，条例の定めにより行う。

(5) 保全施設に関する方針

良好な自然環境を保全するため，必要に応じて保全施設を設ける。



小幡城跡緑地環境保全地域区域図 $S = \frac{1}{5000}$

区域線表示凡例

- ①—② 道路界
- ②—③ 地番界
- ③—④ 道路界
- ④—① 地番界

